

授業科目 NO. 807 地域母子保健活動論

Community Maternal and Child Health Activity

授 業 の 形 態 : 演習

単位数 (時間数) : 2 単位 (30 時間)

開講年次・学期 : 4 年次・前期

必修・選択の別 : 選択・助産師選択コース必修

キ ー ワ ー ド : 地域、母子、助産師活動

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 修 目 標

1) 一般目標 (GIO)

地域で生活する母子とその家族が、妊娠期から産褥・育児期までを安全・安心・快適に過ごすために必要な知識と包括的な視点を身につけ、地域における助産師活動の具体的な方法を修得する。さらに、社会の変化に伴い増加する産後うつや児童虐待などの社会的ハイリスクの課題を理解し、地域において子育て世代を包括的に支援する能力を修得する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) 地域で生活する母子とその家族を、身体的・心理的・社会的側面から包括的にアセスメントし、妊娠期から育児期までの継続支援の必要性を説明できる。(②③)
- (2) 社会的ハイリスク事例に対し、活用可能な社会資源をあげ、関係機関と連携した支援方法を説明できる。(②③)
- (3) 地域母子保健活動の現状と課題を理解し、地域における助産師の役割と責務について説明できる。(①②③④)
- (4) 地域で母子保健に関わる関係機関の機能を理解し、多職種連携における助産師の役割と連携の手順を説明できる。(①②③)

3 学 修 内 容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評価

評価項目	評価割合
定期試験成績	60%
実習成績	%
レポート	%
授業態度	%
小テスト	%
口頭試問	%
その他（実技）	40%
合計	100%

（特記事項）

その他：助産診断における事例展開 20%、実技演習 20%ループリック評価とする。

5 教育担当者

科目責任者：三反崎 宏美

講師 三反崎 宏美（母性看護学・助産学）
 助教 大嶋 舞香（母性看護学・助産学）
 助手 丸山 早紀（母性看護学・助産学）

6 教育担当者の実務経験

担当教員は、看護師・助産師として周産期医療機関における実務経験を有している。

7 教科書

- 1) 我部山キヨ子：助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健、医学書院
- 2) 福井トシ子：助産師業務要覧 第 4 版 2026 年度版Ⅱ実践編、日本看護協会出版会

8 推薦参考書

- 1) 北川眞理子、眞鍋えみ子（編）：今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程、改定第 5 版、南江堂
- 2) 公益社団法人 日本産科婦人科学会、公益社団法人 日本産婦人科医会（編）産婦人科診療ガイド イン産科編 2023
- 3) わが国の母子保健 令和 3 年、母子衛生研究会（最新）
- 4) 国民衛生の動向 2025/2026、一般財団法人厚生労働統計協会

9 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- 1) 授業 1 コマにつき、事前学修・事後学修として計 180 分程度必要である。

- 2) 周産期の診断及び助産実践に必要な知識について、
 - ・公益社団法人 日本産科婦人科学会、公益社団法人 日本産婦人科医会(編)産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023 (https://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_sanka_2023.pdf)
 - ・エビデンスに基づく助産ガイドラインー妊娠期・分娩期・産褥期 2024 (chrome-extension://efaidnbmninnnibpcajpcgiclfndmkaj/https://www.jyosan.jp/uploads/files/journal/JAMguigeline_2021_citizens_QA/jam_guideline2024.pdf)
 にアクセスして、コンセンサスが得られた適正な標準的助産診断・管理法を理解し、ノートにまとめておくこと。
- 3) 厚生労働省 子ども家庭局母子保健課、2022 年最近の母子保健を取り巻く状況 (<https://www.jfpa.or.jp/boshi.pdf>) にアクセスし、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援についてノートにまとめておくこと。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) レポートについては、提出後に直接コメントし、フィードバックする。
- 2) 課題（事例展開）に関しては、評価表を基に到達度や課題をフィードバックする。内容は、事例を授業の中で提示する。
- 3) 実技演習は、終わった後に実施者および観察者、教員でデブリーフィングを行う。

11 履修上の注意事項

- 1) 事前学修をしっかりとって授業に臨むこと。
- 2) 事後学修をして理解を深めること。

12 オフィスアワー等

質問は随時可。ただし事前にメール連絡等することが望ましい。

三反崎 E-mail : mitasaki@kanazawa-med.ac.jp

大嶋 E-mail : ma11@kanazawa-med.ac.jp

丸山 E-mail : maru-sk@kanazawa-med.ac.jp

第4学年

地域母子保健活動論

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
前	1	4月03日（金）	1	講義	授業ガイダンス 地域母子保健の概念と活動の意義		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	2	4月03日（金）	2	講義	近年の地域母子保健統計からみた母子保健活動の動向 地域母子保健を支える法律と施策		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	3	4月10日（金）	1	講義	地域母子保健の基盤（地域包括システム）		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	4	4月10日（金）	2	講義	母子保健法に基づく行政の母子保健事業の体系と役割		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	5	4月17日（金）	1	講義	社会的ハイリスクな対象者を支える法律と施策		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	6	4月17日（金）	2	講義	特定妊婦の定義と地域の支援 災害時の地域助産師の母子への支援		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	7	4月24日（金）	1	講義	地域助産師の母乳育児支援 地域におけるピアサポートの実践		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	8	4月24日（金）	2	講義	乳幼児育児中の母親の孤独感する支援 地域における家族という支援システム		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	9	5月01日（金）	1	演習	社会的ハイリスク妊婦の事例から地域における助産師活動の展開 妊娠期～産褥期に求められる支援	課題：事例展開（評価対象）	母性看護学・助産学	三反崎講師
前	10	5月01日（金）	2	演習	社会的ハイリスク妊婦の事例から地域における助産師活動の展開 妊娠期～産褥期に求められる支援	課題：事例展開（評価対象）	母性看護学・助産学	三反崎講師
前	11	5月01日（金）	3	講義	社会的ハイリスク妊婦の事例から地域における助産師活動の展開 妊娠期～産褥期に求められる支援		母性看護学・助産学	三反崎講師
前	12	5月08日（金）	2	演習	初めての育児を行う母親に対する助産師が行う継続支援	初産婦事例：2週間健診実技/デブリーフィング（評価対象）	母性看護学・助産学	三反崎講師, 大嶋助教, 丸山助手
前	13	5月08日（金）	3	演習	初めての育児を行う母親に対する助産師が行う継続支援	初産婦事例：2週間健診実技/デブリーフィング（評価対象）	母性看護学・助産学	三反崎講師, 大嶋助教, 丸山助手
前	14	5月29日（金）	1	演習	社会的ハイリスクの母親および家族に対する育児期に求められる支援	社会的ハイリスク事例：2週間健診実技/デブリーフィング（評価対象）	母性看護学・助産学	三反崎講師, 大嶋助教, 丸山助手
前	15	5月29日（金）	2	演習	社会的ハイリスクの母親および家族に対する育児期に求められる支援	社会的ハイリスク事例：2週間健診実技/デブリーフィング（評価対象）	母性看護学・助産学	三反崎講師, 大嶋助教, 丸山助手
前		6月09日（火）	2	試験	定期試験		母性看護学・助産学	三反崎講師